

119 聖マタイの召命

宮下規久郎説（ドイツ説）は何故完璧に誤りなのか

2024

真鍋友範



《聖マタイの召命》カラヴァッジョ

1 ルネサンス・バロック絵画の基本表現を理解していない

さて、【イエス・ペテロは、本当に描かれた位置に立っているのか。】

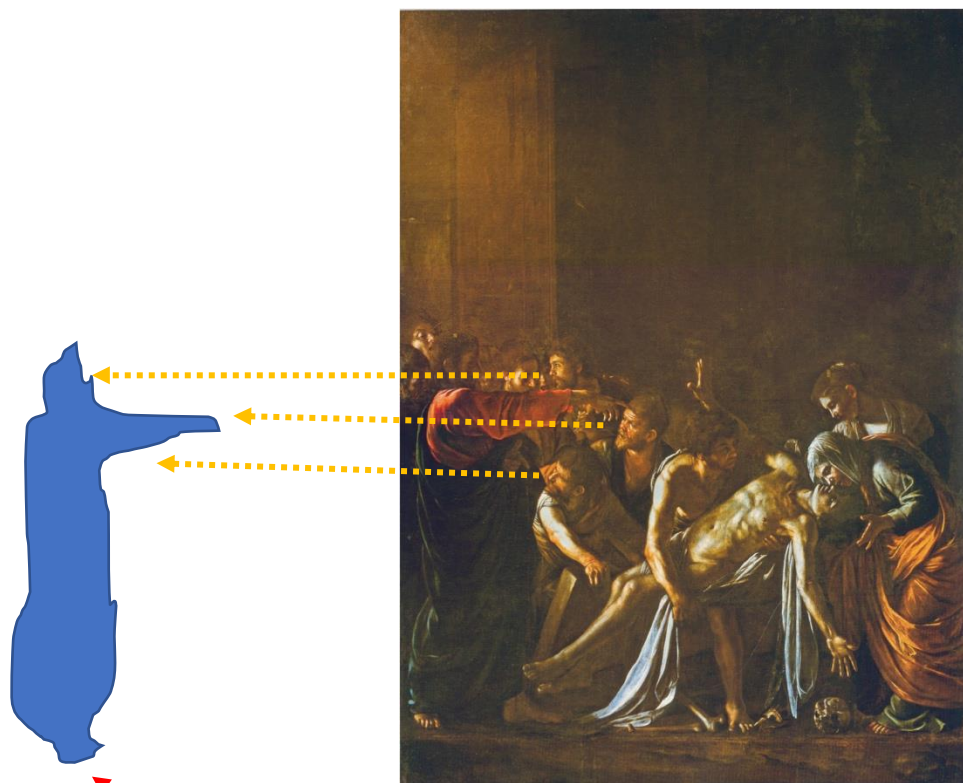
それを示す答えは、【髭男と右隣の若者の視線】だ。

イエス・ペテロの位置を見ているのか、それとも、イエス・ペテロの後ろ側（右側）を見ているのか。

正解は、【髭男・右隣の若い男は、イエス・ペテロの後ろ側を見ている、】だ。

つまり、宮下説では、これに触れることなく、無視した状態で、【イエスもペテ

口も下方を指差している】、と判断している。【下方に位置しているのが、俯いた若い収税吏であるという論法】だ。



イエスはここにいる 《ラザロの復活》カラヴァッジョ

宮下氏は、《ラザロの復活》内での、墓掘人夫たちの視線の意味を理解していない。過去の著書の中で、墓掘人夫たちの視線の先にイエスがいることを理解せず、【何故かイエスの後ろをみている】と、著書の中で解説している。

2 【左右空間圧縮画法】を認識していない。

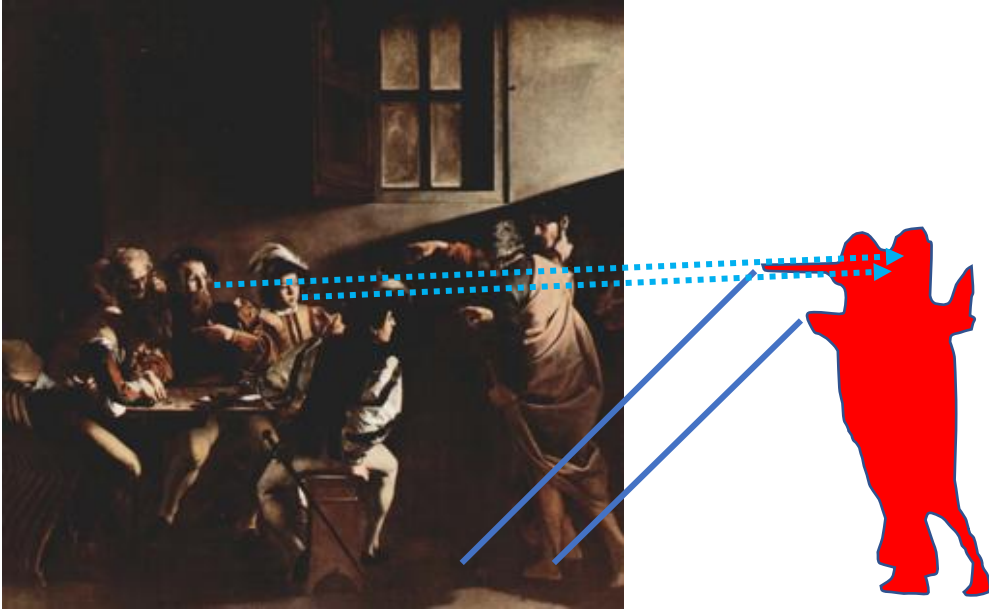
カラヴァッジョは、【左右空間圧縮画法】を、画面幅の不足を補う方法として使い、視線による横空間拡大への技法として、積極的に使用している。

このルネサンス・バロック期に於いて、カラヴァッジョにより採用されていた【左右空間圧縮画法】を理解していなければ、正しく絵画を読み取ることができないのだ。

3 結論

イエス・ペテロが立っていると考えられる画面の右外側から、イエス・ペテロが指を下方に曲げて指差したのなら、指先にあるのは、床なのだ。

宮下ドイツ説は、論理が成立しない。つまり、完全な誤りだ。



* 図示すると、上記の通りとなる。

* 髭男・随伴の若者の視線は、赤の位置に注がれている。そこから、仮に下方を指差しているのであるなら、【そこにあるのは床、ということになる。】

参考：

通常、【下方に指を曲げて指差す人物など、稀だ】。指差すなら【指をまっすぐ伸ばして指差すのが通常の指さし動作だ。】



[PREV](#) ← ● → [NEXT](#)